

三重県医療安全研修会について

1 平成30年度三重県医療安全研修会について

(1) 開催時期 平成31年2月～3月初旬頃を予定

(2) テーマ案

【事務局案】

- ①医療事故の当事者の生の言葉に耳を傾ける 医療事故被害者遺族
- ②公益財団法人 日本医療機能調査機構によるインシデント・アクシデント最新トレンド

【頂戴したご意見等】

(H29年度研修アンケートから)

- ・「TeamSTEPPSの概要」 近畿大学医学部附属病院 辰巳 陽一 氏
- ・裁判事例から学ぶ医療記録の記載方法

(委員ご意見)

- ・医療事故の当事者の生の言葉に耳を傾ける 医療事故被害者遺族
- ・医療に関する保険を扱う保険会社に委託してはどうか。
- ・インフルエンザ・ノロウイルス等の院内発生・アウトブレイクの予防対策
- ・「院内感染対策Up to Date」三重大学病院 医療安全・感染管理部 准教授 田辺 正樹 氏

3 参考

(1) これまでの医療安全研修会の演題

- 平成15年度** 第1回「安全な医療を求めて」(弁護士)、
「院内における医療安全対策について」(医学部教授)
第2回「医療訴訟の現状」(弁護士)、
「当院における医療安全管理対策について」(病院副院長)
- 平成16年度** 第1回「安全な医療を求めて」(弁護士)、
「大学病院から見た薬剤師の職能・過去と未来
～安全な医療提供のために～」(薬剤部長)
第2回「医療安全対策の動向」(厚生労働省)、
「いま患者が医療に望むこと」(NPO法人理事長)
- 平成17年度** 三重県医療安全ネットワークとの共催(三重大学)
- 平成18年度** 「相談内容から見えてくる患者意識」(NPO法人理事長)

- 平成19年度 「医療事故被害者が伝えたいこと」
～医療従事者間のコミュニケーション不足が招いた死～(病院 職員)
- 平成20年度 「基本的な感染管理の再確認講習会」
(リスクマネジメント及び感染管理認定看護師)
- 平成21年度 「医療安全対策の基礎知識」
～ヒューマンエラーを防ぐために～(医学部教授)
- 平成22年度 「医療安全に向けた取り組み」
～武蔵野赤十字病院の実践から～(看護師長)
- 平成23年度 「医療安全 up-to-date」
～地域医療における医療安全を考える～(三重大学)
- 平成24年度 「患者・家族と医療職とのよい関係を築くために」
(東京海上日動上席研究員)
- 平成25年度 「患者と医療者が協働するコミュニケーションづくり」(NPO法人理事長)
- 平成26年度 「医療機関における医療事故の取組～真実説明と職員保護～」
(相模野病院長 内野直樹氏)
- 平成27年度 「医療事故調査制度の概要について」(厚生労働省)、
「事故後対応 (After Harm) の諸問題」
－病院としてあらかじめ考えておくべきこと・準備しておくべきこと－
(病院 情報管理部長)
- 平成28年度 「医療安全管理者に求められる臨床倫理的エッセンス」(三重大学)
「在宅医療と連携したアドバンス・ケア・プランニングと看取り」
～意思決定支援と医療安全は別物なのか～
(病院 地域医療連携室長)
- 平成29年度 「対話が医療を拓く ～医療メディエーションアプローチ～」
(病院 医療安全管理者)
「医療ADRについて ～東京三会医療ADRの取組みを中心に～」
(東京三弁護士会医療関係事件検討協議会委員 弁護士)

(2) 平成29年度研修のアンケート結果

I 今後取り上げてほしいテーマについて

- ① 今回の研修テーマの掘り下げを求めるもの
 - ・メディエーションの具体的な内容、対話をする時のポイントなど
- ② 事例検討的なもの
 - ・看護記録、医師記録などで裁判になった事例
 - ・ヒューマンエラー
 - ・他職種が関わる事例検討
 - ・医療事故の事例
 - ・診療所レベルで起こりやすい医療事故について

③具体的な要望

- ・ チームステップス 辰巳陽一先生

④その他

- ・ 他職種が協働していけるような医療安全の内容、他職種との温度差をなくしていく方法
- ・ 普段の取組、医療機関内で行っている研修内容など
- ・ 医療事故発生時における分析方法
- ・ 医師への説明を行う際の注意事項等
- ・ 医療機器について

II 研修全体について（フリー意見）

- ・ 時間が短かった
- ・ 今回ぐらいの時間（日程・時間帯）だと、参加しやすく良い
- ・ 会場は毎年アスト津がよい
- ・ 事例を検討する機会があるとよい